

CONTENTS

コンテンツの方向性

Keyword



Pain

在宅勤務と生活の両立に悩んでいる。社会も会社も方向性が見えない。決めきれないけど決めなければいけない葛藤。ただ部屋が分かれてるだけではON/OFFが切り替えられない。買った後に後悔したくない。この時代だからこそ誰かと繋がりたい。

Benefit

どんな時代でもマッチします。ずっと大事にしたいくなります。ONもOFFも楽しめます。愛され続けてきた伝統を取り入れたため、空間的な価値は廃れません。空間の可変で気持ちが切り替わりメリハリある生活が送れます。人をもてなしやすいです。その時の自分の「好き」や「趣味」に満たされた空間を自由につくり、暮らせる（絵・お花・教室・自転車etc）

Concept

「辿り着いたのは町家の暮らし方」

在宅勤務と生活の両立に悩んでいる。
決めきれないのに、決めなければいけない葛藤。

でも本当は決めきらなくてもいい。
社会の変化に併せて、可変する家があれば。

私達はフリースペース（土間）/居住空間が上手く共存した「町家」に辿り着きました。二つの空間を完全に分け隔てるのではなく、グラデーション的に空間を分割することで、どんな時代でも生活を自分で設計できる余白を設けています。「物理的な仕切り」だけではなく「概念」で空間に意味合いを持たせることで、趣味も仕事もプライベートも、思う存分満喫していただけます。

DESIGN

デザインの方向性

Keyword



Theme

「光と影・夜明と日暮」

可変・町屋・グラデーション・二面性というキーワードから、着想を得たテーマ。対になる存在でも必ずその中間は存在し、常に何かしらの影響を与え続けています。つまり完全に2つを分断する事はそもそも不可能であり、それは家という単位でも同じだと考えます。二つの存在を認め合い飲み込んだ上で可変性を表現し、安心感/信頼感を表現します。

Tone

「二面性/グラデーション/統一感」

メリハリを持たせる必要がある場合/セクションの変更の際はしっかり境界線を演出するが、セクション内での極端な分断はなるべく控える。テイストに関してもレトロな雰囲気寄りすぎず、現代の可愛げも取り入れる。

PRODUCT

MACHIYA

NEO

INTERVIEW

インタビュー

株式会社グランデザイン一級建築士事務所
一級建築士 高宮透さん

コロナ禍の影響もあり、ライフスタイルは急速に変わりつつあります。リモートワークが当たり前になれば、家の中で仕事と暮らしの境界線はますます曖昧になっていくでしょう。今回提案させていただくのは、「境界線を溶かす家」です。仕事と暮らしを行き来する、グラデーションのある日常をこの家と共に楽しめませんか。

仕事と暮らしの「境界線を溶かす家」

仕事のあり方は目まぐるしく変わっています。リモートワークをする人の割合が増え、今後は行政手続きもオンラインで完結する時代がやってくるでしょう。すると、必然的に家で過ごす時間が増えます。それならば、家の中で仕事の空間とくつろぎ空間を分けたいのではないかと考えました。仕事をするのは週に数日かもしれませんが、1日のうち数時間かもしれません。玄関スペース、ダイニングキッチン、リビングと便宜上名付けてはいますが、目的に合わせて可変的に空間を作れるところが、この家の面白さです。

ライフスタイルに合わせて可変する

最もこだわったのが、空間構成です。可変的な空間を追求したところ、昔ながらの町家のあり方にたどり着きました。今まで仕事は会社でするものですが、家でするようになるとすれば日常のコマ。仕事と暮らしが溶け合っていくのではないかと考えます。1日の中で、一週間の中で、空間が可変的であること。玄関スペースから奥にいくにつれてプライバシーが高まっていくグラデーションのある空間構成は、まさに職住一体の暮らしを体現した町家そのものです。

例えば、玄関フリースペースは外と中を繋ぐあいまいな空間にしました。ワークルームにすれば、お客さまやクライアントとの商談を、靴を脱ぐことなくすることもできます。趣味の場所として使うなども可能です。自転車を飾ったり、作品を展示してギャラリーのようにしたり、自由に作り込んでいただけます。

また、ダイニングキッチンスペースは、家族との食事にとどまらず、心を許した気の合う仲間と食事やお茶を楽しむ空間としても使えます。目的と関係性によって、自由自在に変わる家です。

半永久的に価値を持ち続ける

古い町家が現代でも住まい手を変えながら、受け継がれています。それは時代は移り変わり、改修を繰り返す中で姿形は変わっても、町家で大事にされてきた暮らしや住まい方は普遍的なものであるからだと考えます。そうした町家のあり方を取り入れたこの家も、おそらく半永久的に価値のある家になるでしょう。長い人生の中で、家族が増えたり趣味が変わったりとライフスタイルが変わることはあると思いますが、大事にされ続ける家になったら嬉しいです。

